

# 国立民族学博物館

NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY, OSAKA, JAPAN



Deputy Director-General  
Katsumi TAMURA

# 国立民族学博物館 沿革

~THE HISTORY OF NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

1974（昭和49）年創設

1977（昭和52）年開館

目的：文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこなうとともに、その成果に基づいて、民族資料の収集・公開などの活動をおこなう、これらを通して、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めること。

# 大学共同利用機関

～INTER-UNIVERSITY RESEARCH INSTITUTE

2004（平成16）年4月に国立大学法人法（平成15年法律第112号）により大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の一員として新たに出発。

## 大学共同利用機関

中核的な学術研究の拠点として、国内外の大学・研究機関等の研究者が、大規模な施設・設備や学術資料等を共同で利用するとともに、研究者コミュニティに支えられた共同の研究を実施する機関。平成16年4月に既存の16の大学共同利用機関は4つの機構に再編され、そのもとに設置。

# 現員～STAFF

平成22年8月1日現在

| 区分         | 館長 | 教授 | 准教授 | 助教 | 小計 | 事務職員<br>技術職員含む | 合計  |
|------------|----|----|-----|----|----|----------------|-----|
| 現員         | 1  | 25 | 27  | 3  | 56 | 44             | 100 |
| 客員(国内)     |    | 14 | 5   |    | 19 |                | 19  |
| 客員(国外)     |    | 4  | 2   |    | 6  |                | 6   |
| 館長         | 1  |    |     |    | 1  |                | 1   |
| 管理部        |    |    |     |    |    | 26             | 26  |
| 情報管理施設     |    |    |     |    |    | 18             | 18  |
| 研究部        |    | 18 | 17  |    | 35 |                | 35  |
| 研究戦略センター   |    | 2  | 5   | 2  | 9  |                | 9   |
| 文化資源研究センター |    | 5  | 5   | 1  | 11 |                | 11  |

注) 客員は外数

# 予算～BUDGET

平成22年度

単位：百万円

区分

人件費 1,230

物件費 1,716

教育研究経費 1,142

一般管理費 575

施設費 0

計 2,947

注) 年度計画予算額

# 施設の概要

## ~THE BASIC CONCEPT OF THE MUSEUM DESIGN

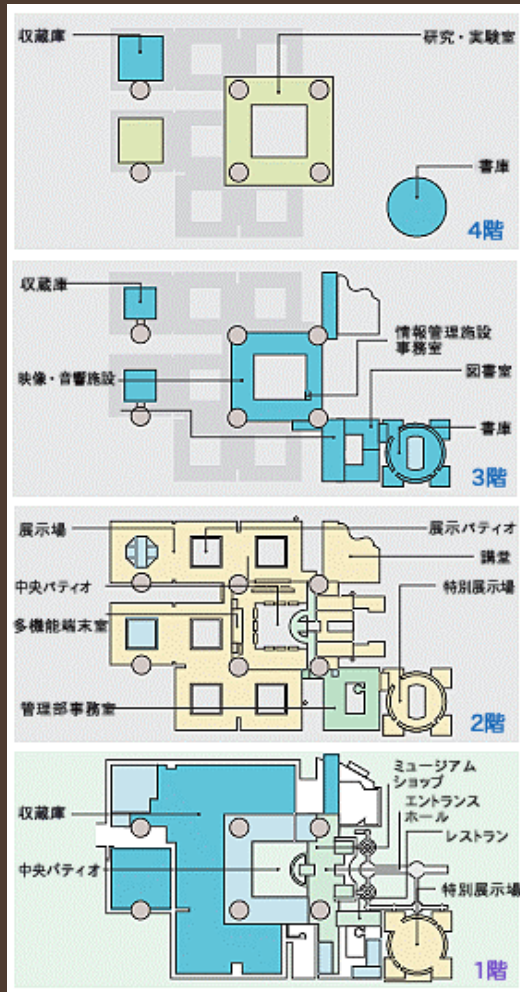


敷地面積：40,821 m<sup>2</sup>

建築面積：17,089 m<sup>2</sup>

建築延床面積：51,225 m<sup>2</sup>

# 施設の概要



屋階：846 m<sup>2</sup>

4階：7,207 m<sup>2</sup> 研究部

3階（中3、中4階を含む）

：7,340m<sup>2</sup> 研究・図書・

管理部門

2階（中2階を含む）

：16,830m<sup>2</sup> 展示・管理部門

1階：15,987 m<sup>2</sup> エントランス・

収蔵・サービス部門

地階：3,015 m<sup>2</sup>

# 機能~FUNCTIONS

---

**研究所**

research  
institute

**共同利用**

joint research

**情報センター**

information  
center

**展示公開**

exhibitions

**社会還元**

social  
contributions

**大学院教育**

graduate  
program



# 研究所~RESEARCH INSTITUTE

---

- 文化人類学・民族学を核とする隣接諸分野の研究をおこない、日本の文化人類学・民族学研究のセンターとしてその機能を十分に発揮すると同時に、研究の成果を出版その他さまざまな形で公開し、研究者コミュニティと一般市民への情報提供と研究広報をおこなっている。
- 研究者は、文化人類学・民族学や言語学、民族技術、民族芸術などを専門とするスタッフで構成される。

# 共同利用~JOINT RESEARCH

---

: THE GRADUATE UNIVERSITY  
FOR ADVANCED STUDIES

- 大学共同利用機関として、研究者コミュニティに支えられた共同研究をおこなう開かれた研究所である。
- 収集・保管する資料は研究のために広く利用されている。

# 情報センター~INFORMATION CENTER

- 研究に基づき、諸民族の生活を知るための標本資料、諸民族の社会と文化に関する映像・音響資料、文献図書資料、HRAF (Human Relations Area Files)などの諸資料を収集し、幅広い研究のための基礎的な資料や情報の整備をおこなっている。
- これらに関する情報を、コンピュータを活用したデータベースの構築を通じて館内はもとより館外の研究者へ提供している。

# 展示公開~EXHIBITIONS

- 研究の成果を展示を通じて公開している。研究者は展示についての企画や実施にも参加しており、研究と展示の緊密な連携を基本方針としている。
- 展示は、世界の諸民族の文化と社会を大きく地域ごとに分けた地域展示と、音楽、言語などの人類文化に普遍的に見られる諸現象を対象とした通文化展示で構成されている。





● 特定のテーマについて、総合的および体系的に紹介する特別展示を開催。

● 急速に変化する世界の動きや研究を迅速に展示に反映させるため、本館展示場内で企画展示も実施。



# 社会還元~SOCIAL CONTRIBUTIONS

---

- 最先端の研究成果を一般に公開するため、学術講演会、みんぱくゼミナール、みんぱくウィークエンドサロン、研究公演、みんぱく映画会などをおこなっている。
- 博物館学集中コースやさまざまなプロジェクトを通して、国際協力に貢献している。



第1回 田村 克己 教授  
東南アジアの30年  
2007年4月28日(土)



第16回 劉 明基 客員教授  
韓国の老人問題  
2007年6月23日(土)



第57回 太田 心平 助教  
キリスト教でひもとく現代韓国  
2008年3月2日(日)





# 大学院教育~GRADUATE PROGRAM

---

- 大学共同利用機関を基盤として設置された総合研究大学院大学の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻、ともに博士後期課程）がおかれ、高度の大学院教育をおこない、創造性豊かな研究者を育成している。
- 諸大学の要請に応じてそれぞれの大学院教育に協力し、研究指導をおこなっている。



---

## 田村克己

専門：東南アジア文化人類学  
ビルマ（現ミャンマー）を中心  
とする東南アジア大陸部および  
東南中国等において調査研究

# 戦後の東南アジアの動き（その1）

---

（Ⅰ） 1945～1960：独立と新たな国作りを  
めぐっての混乱の時代

1954：ベトナム・ディエンビエ  
ンフーの戦い

ベトナム民主共和国成立

（Ⅱ） 1960～1975：ベトナム戦争の時代

1967：ASEAN成立、北爆開始

# 戦後の東南アジアの動き（その2）

---

## （Ⅲ） 1975～1990：東西冷戦の時代

南北ベトナム統一

ベトナム社会主義共和国  
成立

1980～81：ベトナムでの経済政策  
（ドイモイ）の試行  
中越戦争

# 戦後の東南アジアの動き（その3）

---

(Ⅳ) 1990～2005：アジア経済の成長の時代

「経済共同体」としての

ASEAN

1997：アジア通貨危機

インドネシア・スハルト

政権の崩壊

(Ⅴ) 2005～？：グローバリゼーションの

進行

# 民博の創設と展示

---

(1974創設、1977開館)

- 政治 / イデオロギーの時代 (Ⅲ)
- 「異文化」を語る  
—文化相対主義

cf. 日本的高度経済成長



# 民博の展示の特徴 1

cf. 吉田憲司1999『文化の「発見」』岩波書店

- 「構造展示」の手法を採用
  - 文化項目別に転じ、変異を示す
  - 組み合わせで、地域文化の全体的イメージ
  - 個別文化の再現をしない
- 展示物の選択
  - : プラスティック導入以前という時間軸の設定—民族誌的現在
  - **地域文化の個別性と独自の価値を強調**
  - 自文化（日本）とヨーロッパの展示
  - ↓
  - 文化相対主義の具現化**

# 民博の展示の問題点

---

cf. 吉田憲司、前掲書

- 「伝統的」な生活用具の収集・展示への傾き
  - 変化のない、静的なものとしての文化イメージの創出
  - 現代的な器物の収集・展示への視点の欠如
- 短期間に大量の収集
  - 背景情報の欠落した資料

# 民博の展示の特徴2

---

cf. 吉田憲司、前掲書

- 収集と展示の対象としての映像音響資料

→ ビデオテープ、マテリア・テープ、電子ガイドの導入



「博物館」から「博情報館」へ

— 所有権・著作権・肖像権の問題

「編集」の問題



# 文化 / 経済の時代 (IV) ~ (V)

---

- グローバリズム

→ 人・モノ・情報の交流、急激な社会変化

- ローカリズム → グローカリズム

- 自文化を語る / 文化の「生産」

cf. 1996~1997年 Visit Myanmar Year

# 東南アジアの文化をめぐる動き

---

cf. 田村克己（編）1999『文化の生産』ドメス出版

- 各国の政治状況との関わり
- ナショナル・アイデンティティの再認識と創出
- 遺跡保存、博物館建設を通じた可視的なものとして表象
- 資金面、技術面での国家間の交流および国際機関の動き

# 国民統合のための「文化」

---

cf. 田村克己、前掲書

- 国民統合のための手段として、そして象徴としての「文化」
  - 政治的安定、経済の発展
    - 文化に目を向ける
  - 文化が経済的価値＝観光資源
  - 技術移転などの国際協力

# 「文化」とは何か？「伝統」とは何か？

---

- 「文化」の二重構造の再生産  
→ 伝統文化と現代文化、そして両者の間の  
ヘゲモニー争い
- 「文化」の選択をめぐる基準  
→ 「高い文化 (high culture)」や「良い文化」  
という価値づけとそれ以外に対する排除
- 地方文化、少数民族の文化の問題

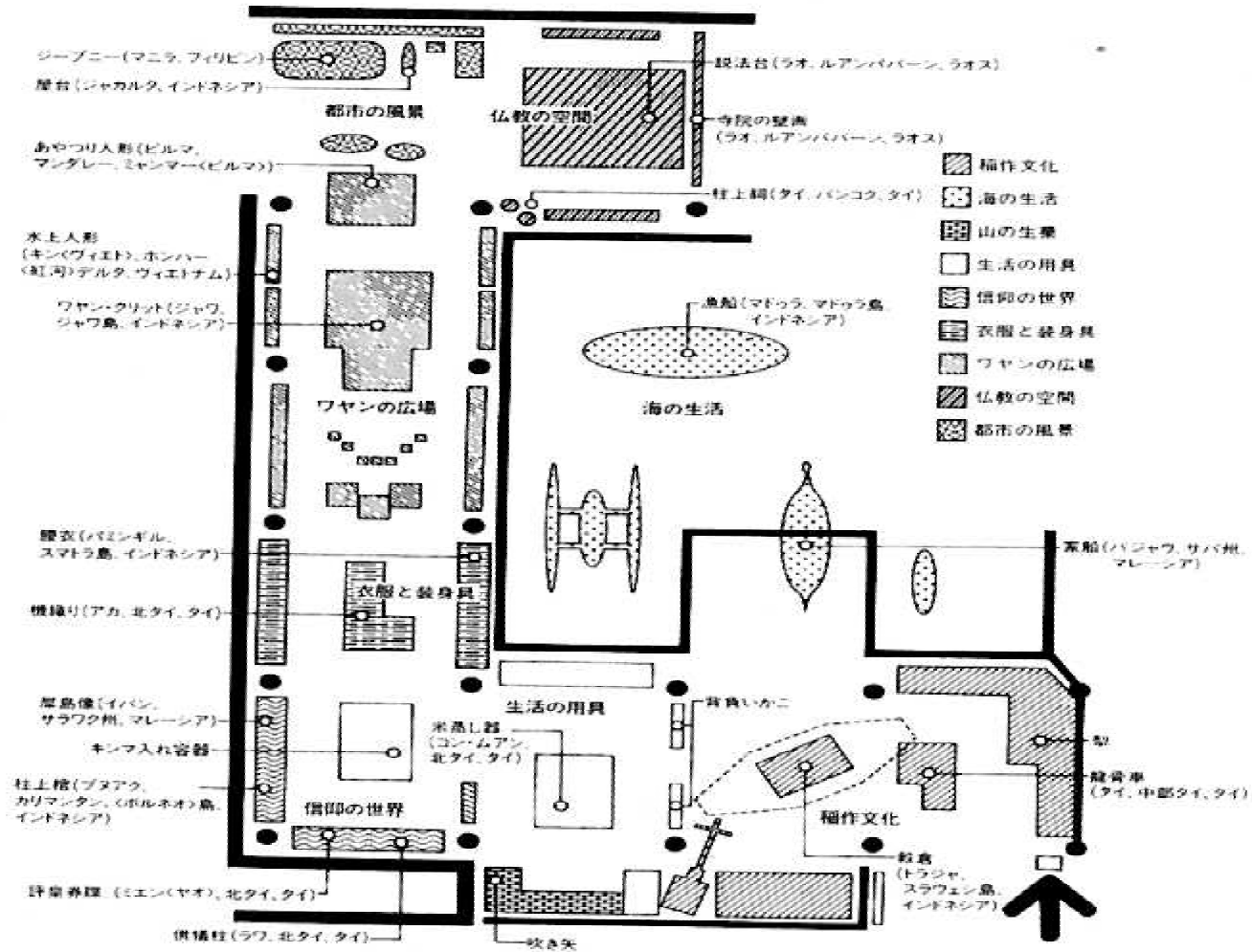


## 東南アジア展示のリニューアル（1996年）

---

- 前半部に「基層文化」→民族文化の多様性  
後半部に国民文化や現代文化  
しかし、民族の現在を対象→流動化し多様化する現代文化の把握の問題
- 小テーマの連続  
— 全体のコンセプトの問題
- 研究上の概念を展示することの困難さ

# 東南アジア展示平面図



( )内は、民族名、地名、国名の順。  
 英文解説シートから作成。

# 「第二期展示基本構想」（2001年）

---

cf. 『国立民族学博物館三十年史』 2006

## 地域テーマ展示の開始

- 一方的な民族誌展示のあり方に対する当の民族や文化の担い手からの異議申し立て
- 来観者が入手できる情報量の増大にともなう民博に対する要求の高度化と多様化

## 「第二期展示基本構想」(続)

---

- 時代の変化と研究の進展への迅速な対応
- 展示する側(研究者)、展示される側(対象文化の人びと)、展示を見る側(来館者)の間の相互の対話と啓発の場  
→ フォーラムとしての民博の実現という方向の提示
- 「基本展示コーナー」と「テーマ展示コーナー」による構成の方向性

# 新構築の例（アフリカ展示）

## 働く

アフリカに行くと最初に出会うのは、さまざまな仕事に従事する人びとだ。このセクションでは、アフリカの都市と農村に住む11人の人びとに、仕事道具を示してもらい、自分の仕事に対する思いを語ってもらった。彼らがなにを考え、自分の仕事にどのような誇りをもっているのか。彼らのことばに耳を傾けてほしい。彼らの喜びや悩みを知ることで、彼らより深く理解できる。そこからあらたな対話が始まるだろう。

### 耕す

ヨセフ・ピリ

トウモロコシの栽培が、わたしの一番の仕事です。スキを牛に引かせて畝を作った後は、このクワで除草をします。収穫には、クワを使います。収穫が終わり、乾季になると、村の男はほとんど全員、町に出稼ぎに出ます。



#### クワ

民族：チェワ ザンビア  
2009年収集

### 墓標をきざむ

ジャック＝ジャン・エフィ  
アインベル

南部の金持ちは、人やウシの彫刻を墓にたてる。昔の彫刻はウシ1頭とひきかえだった。わしの彫刻は海外でも評価されているので、ウシ1頭よりも高いよ。



#### 墓標彫刻「アルアル」

ジャック＝ジャン・エフィアインベル作  
民族：マハファリ マダガスカル  
2008年収集

### 狩る

ダンマベ

わたしは昔から、甲虫（こうちゅう）の毒を使った弓矢猟で野生動物をとってきた。最近では、獲物の数も少なくなったし、わたしの弓矢猟をする人はめっきり減ったなあ。



#### 弓矢

民族：サン ボツワナ  
1999年収集  
H0212922 ほか

### 演奏する

シエマヌア

わたしは、子どものころからデングー（親指ピアノ）を演奏してきた。村の暮らしを曲にしたり、ラジオの音楽をアレンジしたりしたものもあるさ。



#### 親指ピアノ「デングー」

民族：サン ボツワナ  
1999年収集  
H0212887

# グローバル展示の新構築（2008年～）

---

1. 大学協同利用機能の最大限の活用と、それに応じた展示システムの導入
2. 文化の違いを超えたフォーラムとしての展示
3. 地域文化の展示から、地域と世界のつながりを示す展示へ
4. 情報提供の高度化・深化
5. 来観者の多様な要求にこたえる展示

# 博物館研修（1994年～）

---

## JICA集団研修：「博物館学集中コース」運営 “Intensive Course on Museology”

- 博物館の運営に必要な、収集・整理・研究・展示・保存に関する実践的技術の研修を実施し、博物館を通じて各国の文化の振興に貢献できる人材を育成するもの
- JICA集団研修「博物館技術コース」の一環として、本館で約3週間にわたり「博物館学国際協力セミナー」を実施